

JICA 中国事務所ニュース

2010年7月号

【トピックス】

- ◎ 環境に配慮した事業活動を推進 2

【ニュース】

- ◎ 日本の経験を節水型社会建設に貢献 3

- ◎ 災害後の心のケアの重要性を強調 4

- 【寄稿コーナー】 4

- 【赴任者コーナー】 6

- 【China Cool】 7



企業環境監督員制度の試行研修

♪ お知らせ

- ◎ JICA 青年海外協力隊員の写真展「協力隊の見た中国」を開催

期間：平成 22 年 7 月 28 日(水)より 2ヶ月

場所：喫茶店「文鳥珈琲」(北京の観光スポットである南鑼鼓巷にあります)

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

編集室担当：shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- <http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/index.html> (中国事務所ニュース)
- <http://j.people.com.cn/99005/index.html> (ボランティア活動)
- <http://searchina.ne.jp/jica> (サーチナ JICA ページ)

トピックス

環境に配慮した事業活動を推進 ～循環型経済推進プロジェクト 企業環境監督員制度とグリーン購入の支援～

◎企業環境監督員制度の試行研修を開催

当プロジェクトでは、「環境に配慮した事業活動の推進」を目的として「企業環境監督員制度の試行準備」協力を実施しています。これは、1971年に日本で施行された「公害防止管理者制度」を参考として、中国の急激な経済発展と環境保護の両立を目指した新たな「制度」の確立に支援・協力するものです。この度、「2010年度第1回企業環境監督員制度の試行研修」が環境保護部環境監察局の史慶敏処長、日中友好環境保全センターの董文萱プロジェクト主幹ほか河南省及び山西省の国家重点汚染排出企業関係者等約140名が参加し、遼寧省葫蘆島市の環境保護部研修センターにて7月5日から9日までの日程で開催されました。

冒頭、環境保護部の史処長から挨拶があり、中国経済の更なる発展と環境保護の両立および資源の有効活用の観点からも企業内での自主的な環境管理が極めて有効かつ効果的であること、その意味で本研修に参加した関係者の役割は極めて重要であり、その活躍に期待している旨の発言がありました。本研修では、昨年度に教材開発や日本での中核講師研修を終えた研修員が講師を担当するとともに、実務に即したプログラムとして、日系企業の松下電器(中国)やオランダと中国の合弁企業である中荷水処理モデル研究研修センターの環境管理担当者から、実際の企業内環境管理体制とその実施状況及び水汚染抑制技術等の紹介がありました。また、参加者との間で管理手法や課題解決のための活発な意見交換が行われ、本制度の有効性についての共有化が図られました。今年度は計10回、延べ1,200名の研修を計画しており、これから随時開催していく予定です。



エコラベル製品に関する説明会

◎エコラベル製品の政府調達リスト説明会

「環境に配慮した事業活動の推進」の課題の一つである「中国の政府グリーン購入の技術支援システムの確立と改善を行う」では、日本のグリーン購入の経験に基づき指導を行ってまいりましたが、その成果として、この度「エコラベル製品の政府調達リスト」に係る説明会を7月2日に北京で実施しました。第6回政府調達用のエコラベル製品の政府調達リストの発表が2010年9月に予定されており、その実施が順調に行われるよう一般企業からも事前に広く意見を集めるために開催したものです。当日は約200社の出席があり、関心の高さがうかがわれました。

これらの活動がそれぞれの関連分野で有効に推進されますよう、有機的連携に努めますのでご協力並びにご支援頂きますようお願いいたします。

(長期専門家 立場正夫)

日本の経験を節水型社会建設に貢献 ～節水型社会構築モデルプロジェクトが全国節水管理研修を実施～



セミナーの様子

5月25日～26日、重慶市において、当プロジェクトと水利部との共催で、「全国節水管理研修」を実施しました。節水型社会建設を推進するため、現在までに全国で81個所の節水型社会建設重点都市(市、県、区等)を設定していますが、これら重点都市の関係者が今回の研修にそれぞれ1名ずつ参加し、水利部や重慶市からの参加者を含めて、全体としては合計約120人の規模の研修となりました。

冒頭、当プロジェクトのディレクターである陳明・水利部水資源司副司長、載耀清・重慶市水務局副局长の他、瀬野清水・在重慶日本国総領事よりご挨拶を頂きました。

陳・副司長によると、これまでに節水型社会建設重点都市の関係者が甘肅省張掖市において経験交流会として一堂に会したことはありますが、参加者数・全国的な範囲等、規模としては今回のものが最大であるそうです。陳・副司長は、中国の節水を日本の経験と組み合わせたいという考えを持っており、今回の研修において、水利部が進める節水プロジェクトは最高潮に達したとも述べていました。

研修の主な内容は、当プロジェクトのこれまでの成果の報告の他、日本の水資源管理制度の歴史や理

念の説明、日本の節水に係わる経験紹介(節水型都市づくり、工業の節水技術、再生水利用の制度と技術、節水教育)を行いました。

中国は広く、各地で気候や地理条件が異なり、経済の発展の度合いも異なりますが、日本も限られた水資源量の中で経済発展を遂げ、そして生態環境を回復させる努力をしてきており、このような点は、今まさに経済成長と資源の矛盾に直面している中国が参考とする余地は十分にあると思います。今後、今回の研修参加者が、日本との比較をしつつ、更に効率的な水資源管理を行っていくことを期待しています。

2日間の研修は、朝早くから夕方までの厳しいスケジュールで、研修参加者も大変であろうと思いましたが、研修終了後のアンケートを集計したところ、2日間では短いため、もう少し長い研修にしてほしいという声が多く、節水に対する参加者の興味・関心が高いことがわかりました。

なお、この全国節水管理研修に先立つ、中国節水週間(5月16日～24日)には、プロジェクトサイトである河南省鄭州市、山東省淄博市において節水技術研修を実施しました。どちらの都市においても、省内各都市より100人以上の参加者があり、ここでも日本の節水の経験がより多くの中国水資源管理者へと伝わっているという印象を受けました。

今後も、中国の節水型社会づくりの推進のため、ニーズに合った研修やプロジェクトを通じて得られた節水の取り組みを集めた事例集の作成などを行っていくこととしています。

(長期専門家 泉博隆)

災害後の心のケアの重要性を強調 ～前 JICA 中国事務所次長が兵庫での講演～



藤本前次長が心のケアプロジェクトを講演している様子

6月4日、JICAの藤本正也中国事務所前次長が、兵庫県内で行われている連続講座「災害事件後の心のケア」の講師として、JICA 技術協力「四川大地震復興支援－こころのケア人材育成プロジェクト」の立ち上げから現在に至るまでの活動について、講演しました。この連続講座は兵庫県民に対して、大学一般教養科目レベルの授業を提供するもので、藤本前次長は全10回の講座のうち1コマを担当しました。災害後のこころのケアに関心を持つ大学生から高齢者まで、職業も新聞記者や会社員など幅広い層の聴講者が最後まで集中力を切らすことなく、藤本前次長の説明に耳を傾けていました。講義の後半は参加者が小グループで、学んだこと、関連した内容で自分が経験したこと、自分が思ったことなどを自由に発



全講座のコーディネーター富永教授(左)

表しあい、その結果をグループごとに総括し、全員に共有しました。

この「災害事件後の心のケア」をテーマにした講座では、全講座のコーディネーターを富永良喜・兵庫教育大学教授が務めているだけでなく、高橋哲・兵庫県スクールカウンセラースーパーバイザー、瀧ノ内秀都・芦屋市立宮川小学校教諭、諏訪清二・兵庫県立舞子高等学校環境防災学科長など、こころのケア人材育成プロジェクトにもご協力頂いている専門家が講義を1つずつ担当しています。この連続講座を通じて、「こころのケア人材育成プロジェクト」が地元の兵庫県内でも広く知られることを期待しています。

(JICA 兵庫国際センター 細川幸成)

寄稿コーナー

上海万博シリーズ 第3回目 ～環境問題の視点から～

上海万博は「より良い都市、より良い生活」をメインテーマとして開催されていますが、その中でももちろん環境問題も重要なテーマとなっており、各国のパビリオンでも色々と扱われています。今回は環境の観点から、会場内でのちょっとしたことをご報告します。

■会場内の電動バス

前号でも報告がありましたが、万博会場内には無

料バスが走っており、自由に乗り降りすることができます。一見すると普通のバスですが、どうやらすべて電気で走る電動バス。しかも、さらによく見るとバスにも2種類あり、天井に何やらレーダーのような機械が付いているものがあります。これは何だろう？と不思議に思っていたところ、停留所で止まったバスにふと目をやると、ニョキニョキと伸びるではありませんか！

実はこれ、停留所に止まった時に充電するシステ

ムなのです。停留所にだけ電車の架線のようなものが設置されており、その場所では端末を伸ばして充



バスの上に何やら不思議な機械

■会場内の再生紙ベンチ

歩き疲れた時に休めるベンチ。会場内にはたくさんのベンチがありますが、良く見てみると中には牛乳パックをリサイクルして作られたものがあります。写真のベンチ1つあたりに 856 個の牛乳パックが使われているそうです。ただ、私の行った日は雨で濡れていて座れませんでした。



牛乳パックをリサイクルしたベンチ

電、航続距離を延ばすことができる仕組みのようです。バスの(近い)未来はこうなるのでしょうか？



バス停で伸びて充電！

■もちろん日本館も環境重視

最後は簡単ですが日本館。館内には水処理の技術やハイブリッド自動車などの展示があり、トキと自然に関する発表やステージ、建物自体も省エネ環境仕様と環境を全面に打ち出しています。

ここで紹介したのはごく一部ですが、きっともっと色々なものが見つかるはず。行った際にはぜひ探してみてください。少し違った角度から万博をしてみるのも面白いのではないのでしょうか。

(所員 坂元芳匡)

赴任者紹介コーナー

JICA ボランティア 22 年度 1 次隊が到着しました



6 月 28 日に平成 22 年度 1 次隊の 11 名が北京に到着しました。日本国大使館など関係機関への表敬や約 3 週間の語学訓練の後、それぞれの配属先へ赴任します。任期は 2012 年 6 月までの 2 年間で、今後の活躍が期待されています。

■青年海外協力隊

吉田希	日本語教師	吉林省白城市	白城師範学院
栗野藍	日本語教師	遼寧省瀋陽市	瀋陽市朝鮮族第二中学
宮坂智夏	日本語教師	青海省西寧市	青海民族大学
永山俊介	作業療法士	内蒙古呼倫貝爾市	内蒙古仁愛リハビリテーション病院
金井信二	作業療法士	河北省唐山市	开滦リハビリテーション病院
小川暁子	理学療法士	河北省唐山市	开滦リハビリテーション病院
石井敬子	幼児教育	湖南省株洲市	株洲市太陽宮芸術幼稚園
豊岡孝章	野球	河北省石家庄市	河北師範大学付属小学校
大内崇行	野球	重慶市	重慶市巴県中学

■シニア海外ボランティア

松本康男	観光日本語	青海省西寧市	青海民族大学
------	-------	--------	--------

(所員 鈴木大介)

China Cool!

中国酷！

桂林でのワールドカップの観戦会

世界はワールドカップ(南アフリカワールドカップ)一色。サッカー大好き中国でも、異常な盛り上がりです(中国は出場していないのに)。多くのレストランやバーがパブリックビューイング化しており、たくさんの方が集まってそれぞれ最良のチームに声援を送っています。日本中が熱狂したカメルーン戦の6月14日、私と妻は、農業プロジェクト鳥取専門家夫妻と一緒に桂林にいました。離江下りという最大の任務を終え(筆舌に尽くせぬほどの景色でした)、夜は日本代表を応援するために、とあるバーに速攻です。ちなみに鳥取専門家は中学時代にサッカー全国準優勝という輝かしい経歴の持ち主。彼の解説付き観戦を企んでおりましたが、残念ながら超満員。ここはスタンディング応援しかないという覚悟を決めた瞬間、何と中国人グループが「日本の試合だから席をどうぞ」と譲ってくれました。息を飲む試合。ピンチには悲鳴が上がり、本田選手の得点場面では、絶叫！日本の歴史的勝利を全員がとても喜んでくれていました。みんな、同じアジアである日本を応援しにきたとのこと。未来に向かう日本と中国の関係が草の根から進んでいることを感じ、こころから感動しました。素晴らしい出会いと時間に感謝です。(長期専門家 堤敦朗)



事務所の近くのショッピングモール前に作られたワールドカップオブジェ。夜にはライトアップされます。